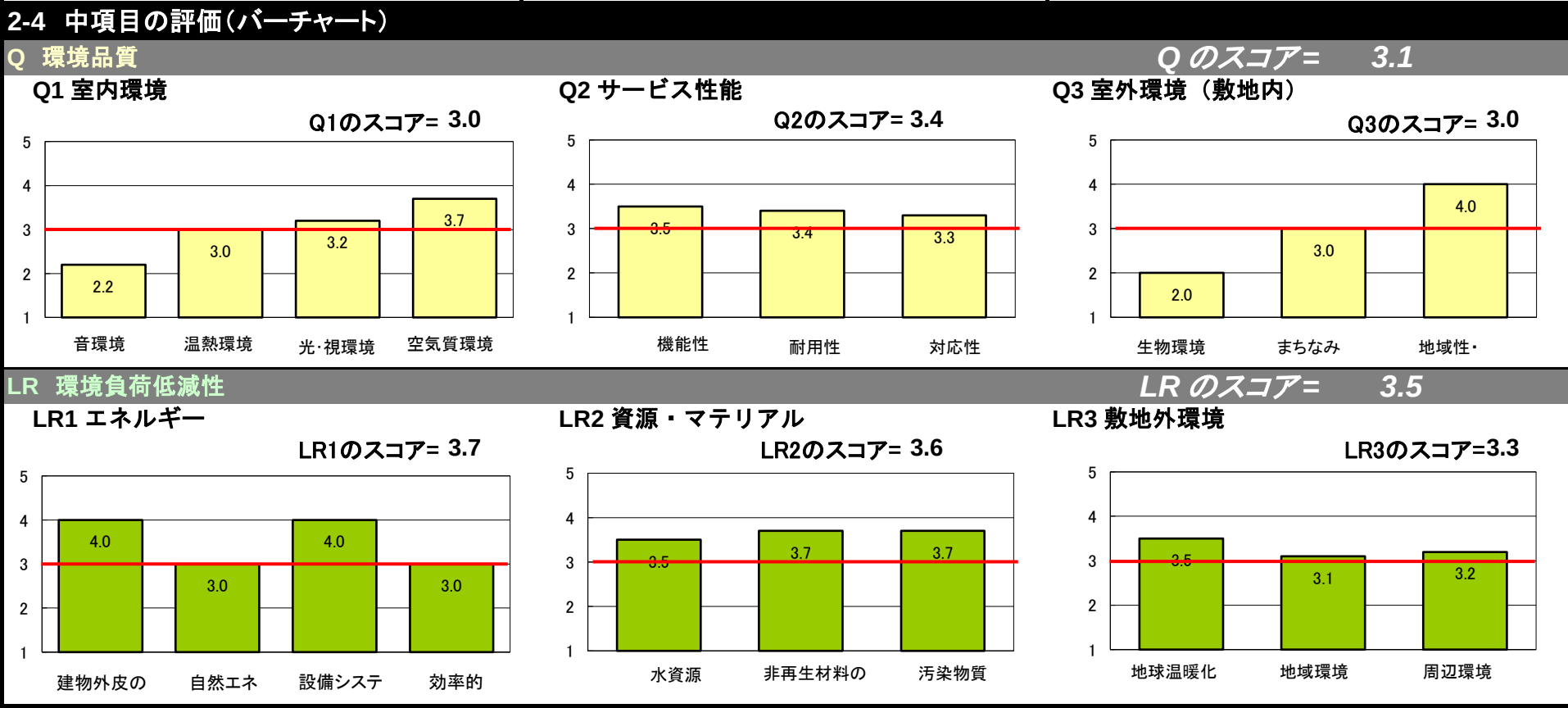
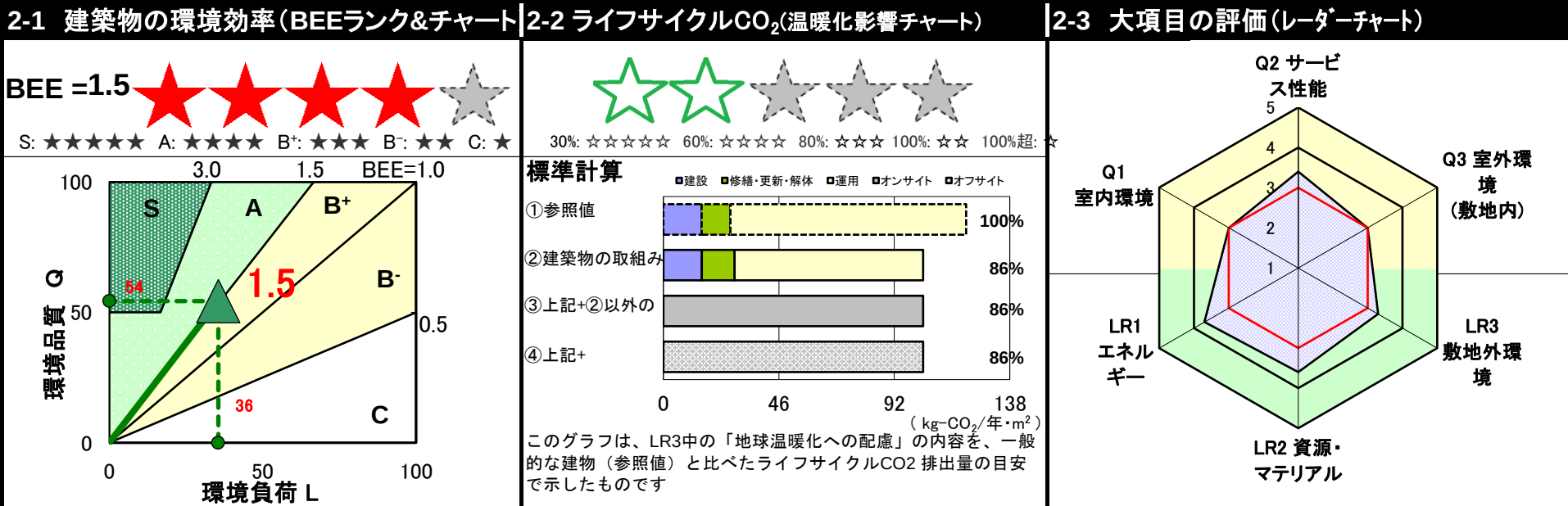


CASBEE® 熊本《新築》 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)白川公園内複合施設新築工	階数	地上7F
建設地	熊本県熊本市中央区草葉町5番10	構造	RC造
用途地域	商業地域	平均居住人員	250 人
気候区分	6地域	年間使用時間	4,667 時間/年
建物用途	学校,物販店,集会所,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年3月 予定	評価の実施日	2017年8月3日
敷地面積	2,658 m ²	作成者	蔵原 佳代子
建築面積	359 m ²	確認日	2017年8月3日
延床面積	2,248 m ²	確認者	伊東 正太郎



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷低減性)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

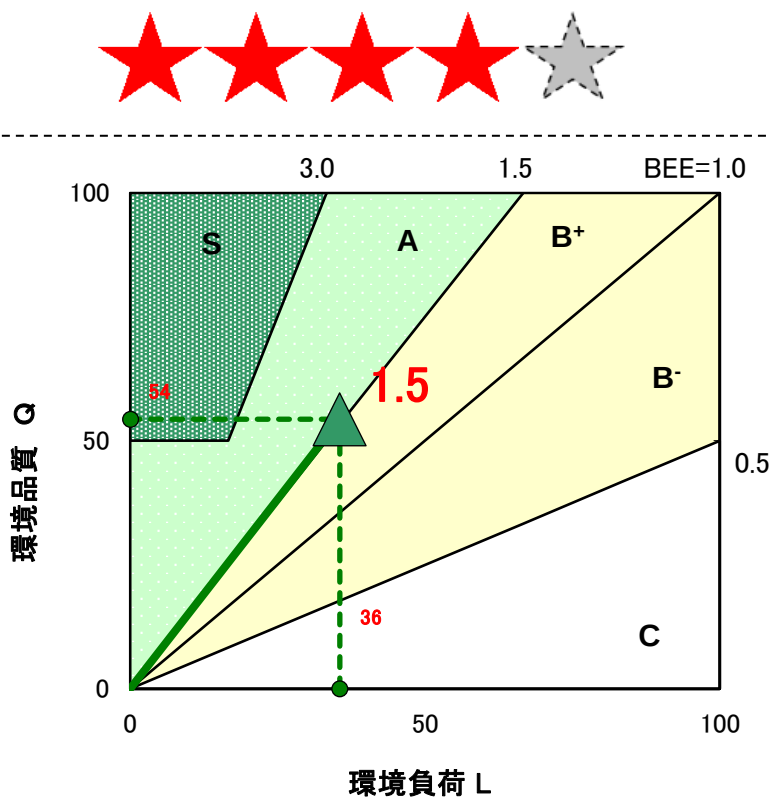
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観
建物名称	(仮称)白川公園内複合施設新築工	階数	地上7F	
建設地	熊本県熊本市中央区草葉町5番1の	構造	RC造	
用途地域	商業地域	平均居住人員	250 人	
気候区分	6地域	年間使用時間	4,667 時間/年	
建物用途	学校,物販店,集会所,	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2019年3月 予定	評価の実施日	2017年8月3日	
敷地面積	2,658 m ²	作成者	蔵原 佳代子	
建築面積	359 m ²	確認日	2017年8月3日	
延床面積	2,248 m ²	確認者	伊東 正太郎	

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



BEE = 1.5

■BEE(環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)



排出率

86%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点

87

評価点

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

88.7

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

88.7

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

82.5

【重点事項4】 循環型社会の実現

86.2

■熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★
80点以上100点未満	★★★★
60点以上80点未満	★★★
40点以上60点未満	★★
40点未満	★

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

- ・公園内の計画のため、公園との調和を重視し、北側建物開口部にガラスを多用し、公園の緑を室内から感じられると共に、敷地内緑化、建物壁面緑化、デッキテラスの緑化を室内から感じられるよう計画した。
- ・災害時の避難所として機能できるよう、耐震性の強化、太陽光パネル、非常用発電機、中水利用等を計画した。
- ・ユニバーサルデザイン、バリアフリーに配慮するため、障がい者団体説明会を開催し、意見、要望を設計に反映できるよう計画した。

Q1 室内環境

- ・F☆☆☆☆建材を下地材、接着剤、仕上材共使用。
- ・全館禁煙とし、施設内の空気質環境に配慮。

Q2 サービス性能

- ・エレベーターを2基設置し、大人数の催しの際にも混雑しないよう配慮した。
- ・1階ロビーホワイエは利用者の交流スペースとなるよう、イス、ベンチ等を設置したり、可動式展示パネルを設けギャラリーとして利用したり、公園側の出入口を多く設け、公園と一体的に利用可能にした。
- ・休憩や交流の場となるよう、5、6階に公園に面したデッキテラスを設けた。
- ・災害時や停電時でも施設が利用可能なように、非常用発電設備を設けた。
- ・ユニバーサルデザイン、バリアフリーに配慮し、適切な位置に手摺を設け、サイン計画を行い、利用者が施設を利用しやすいよう配慮した。

Q3 室外環境（敷地内）

- ・敷地内、建物壁面の一部及びデッキテラスに緑化を行い、暑熱環境に配慮した。
- ・サイン計画を行い、利用者が施設を利用しやすいよう配慮した。
- ・敷地内通路は段差をなくし、バリアフリーに配慮した。

LR1 エネルギー

- ・ペアガラスを採用し、断熱性を高めた。
- ・南側開口部直上に庇を設けた。
- ・省エネに配慮された設備機器を採用した。
- ・太陽光パネルを設置し、自然エネルギーを採用した。

LR2 資源・マテリアル

- ・断熱材は全てノンフロンとする。
- ・1階アルミサッシの一部に県産木材によるカバーを採用した。
- ・1階ロビーホワイエの壁仕上の一部に県産木材を採用した。
- ・トイレ用水に中水利用を採用した。

LR3 敷地外環境

- ・敷地南側に敷地内提供歩道を設け、歩行者の安全性と利便性に配慮した。
- ・適切な数の駐車駐輪スペースを計画し、満車時に路上待機しないよう出入口にはゲートを設けず、周辺の交通不可軽減に配慮した。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 (仮称)白川公園内複合施設新築工事

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2015年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		87
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				88.7	0.40	35.48
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.10			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.03			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.01			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	4.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	5.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				88.7	0.20	17.74
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	4.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	4.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	4.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				82.5	0.20	16.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				86.2	0.20	17.24
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.2	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数

CASBEE-建築(新築)2014年版 (仮称)白川公園内複合施設新築工事			欄に数値またはコメントを記入		■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)		
スコアシート 実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
			評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質							3.1
Q1 室内環境				0.40		-	3.0
1 音環境			2.2	0.19	-	-	2.2
1.1 騒音			3.0	0.40	-	-	
1.2 遮音			1.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能			1.0	0.82	-	-	
2 界壁遮音性能			1.0	0.08	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			1.0	0.05	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			1.0	0.05	-	-	
1.3 吸音			3.0	0.20	-	-	
2 温熱環境			3.0	0.39	-	-	3.0
2.1 室温制御			3.0	0.50	-	-	
1 室温			3.0	0.52	-	-	
2 外皮性能			3.0	0.22	-	-	
3 ゾーン別制御性			3.0	0.26	-	-	
2.2 湿度制御			3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式			3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境			3.2	0.14	-	-	3.2
3.1 昼光利用			3.5	0.41	-	-	
1 昼光率		【学校】昼光率:3.479%	5.0	0.28	-	-	
2 方位別開口			-	-	-	-	
3 昼光利用設備			3.0	0.72	-	-	
3.2 グレア対策			3.0	0.14	-	-	
1 昼光制御			3.0	1.00	-	-	
3.3 照度		【学校】平均照度599lx(大研修室)	4.0	0.07	-	-	
3.4 照明制御			3.0	0.39	-	-	
4 空気質環境			3.7	0.29	-	-	3.7
4.1 発生源対策			4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆建材の積極的な採用	4.0	1.00	-	-	
2 アスベスト対策			-	-	-	-	
4.2 換気			3.0	0.30	-	-	
1 換気量			3.0	0.45	-	-	
2 自然換気性能		【学校】0.114(1/15以上)	4.0	0.09	-	-	
3 取り入れ外気への配慮			3.0	0.45	-	-	
4.3 運用管理			4.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視			3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		建物全体が禁煙	5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能			-	0.30	-	-	3.4
1 機能性			3.5	0.40	-	-	3.5
1.1 機能性・使いやすさ			4.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性			-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応			-	-	-	-	
3 バリアフリー計画		【集・物】バリアフリー新法の円滑化誘導基準を満足【学校】半分以上満足	4.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性			3.3	0.30	-	-	
1 広さ感・景観			2.0	0.23	-	-	
2 リフレッシュスペース			2.0	0.10	-	-	
3 内装計画		・コンセプトが明確・機能が明確化・内観パースの作成	4.0	0.67	-	-	
1.3 維持管理			3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計			3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保			3.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務			-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性			3.4	0.30	-	-	3.4
2.1 耐震・免震			3.8	0.50	-	-	
1 耐震性		【集・物・学】基準法に定められた25%増の耐震性	4.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能			3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数			3.2	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数			3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な用途上位3種類の、2種類以上にB以上を使用しEは不使用	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.20	-	-	

2.4 信頼性	1	空調・換気設備		2.8	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
	3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備		2.0	0.20	-	-	
	3 対応性・更新性			3.3	0.30	-	-	3.3
3.1 空間のゆとり	1	階高のゆとり	【物販店】階高:3.6m 【学校(<2000㎡)】階高:3.7m	4.3	0.30	-	-	
	2	空間の形状・自由さ	【集会所】比率:0.25【物販店】比率:0.25【学校】比率:0.274	5.0	0.33	-	-	
				4.0	0.67	-	-	
	3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
	3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
	1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.0	
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0	
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30	-	-	4.0	
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	・空間提供・地域貢献・防犯・中間領域の形成	5.0	0.50	-	-		
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.5	
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.7	
1 建物外皮の熱負荷抑制			[BPI _m]=0.77	4.0	0.20	-	4.0	
2 自然エネルギー利用				3.0	0.10	-	3.0	
3 設備システムの高効率化			BEI 非住宅 0.80 住宅(専有部) -	4.0	0.50	-	4.0	
集合住宅以外の評価(3a.3b)			高効率設備の採用	4.0	1.00	-		
集合住宅の評価(3c)				-	-	-		
4 効率的運用				3.0	0.20	-	3.0	
集合住宅以外の評価				3.0	1.00	-		
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-		
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-		
集合住宅の評価				-	-	-		
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-		
4.2	運用管理体制		-	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.6	
1 水資源保護				3.5	0.20	-	3.5	
1.1	節水	節水コマ、省水機器採用	4.0	0.40	-	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.3	0.60	-		
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-		
2	雑排水等利用システム導入の有無	中水利用	4.0	0.30	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減				3.7	0.60	-	3.7	
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.10	-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.20	-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			パーティクルボード、再生クラッシュラン、再生材ベンチ	5.0	0.20	-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	0.10	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			GL工法、LGS下地	5.0	0.20	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.7	0.20	-	3.7	
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-		
3.2 フロン・ハロンの回避				4.0	0.70	-		
1	消火剤		-	-	-	-		
2	発泡剤(断熱材等)	A種押出法ポリスチレンフォーム3種b、吹付け硬質ウレタンフォームA種1(ノンフロン)	5.0	0.50	-	-		
3	冷媒		3.0	0.50	-	-		
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3	
1 地球温暖化への配慮			ライフサイクルCO2排出率:85%	3.5	0.33	-	3.5	
2 地域環境への配慮				3.1	0.33	-	3.1	
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-		
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.6	0.25	-		
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-		
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-		
3	交通負荷抑制	・適切な量の駐車スペース確保・管理者用車両スペース確保・導入路の	5.0	0.33	-	-		
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-		
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33	-	3.2	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-		
1	騒音		3.0	1.00	-	-		
2	振動		-	-	-	-		
3	悪臭		-	-	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40	-		
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-		
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-		
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-		
3.3 光害の抑制				4.4	0.20	-		
1	屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策	光害対策ガイドライン、広告物照明の取扱いの過半を満足	5.0	0.70	-	-		
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-		